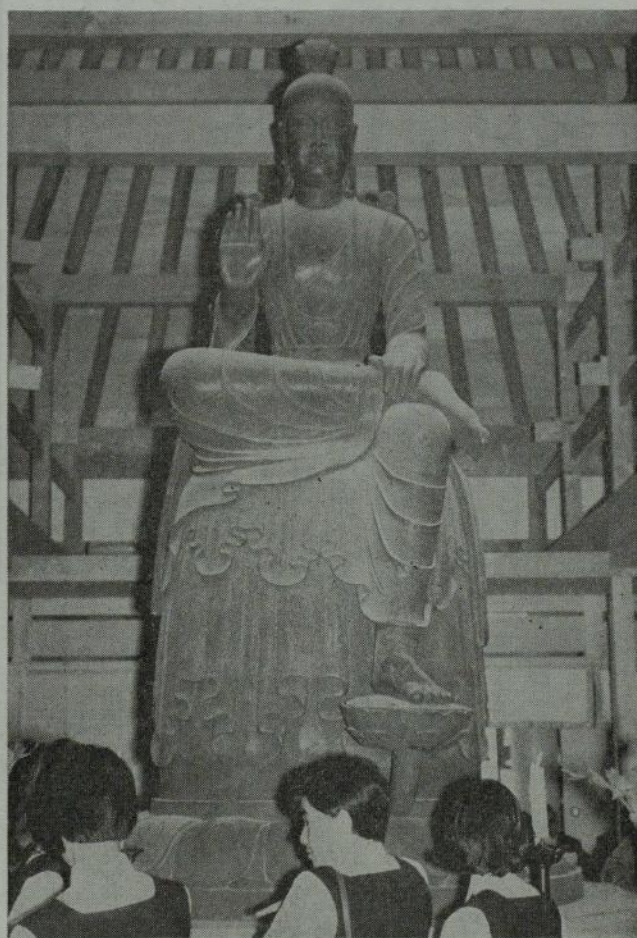


NO. 157

全 仏

6/45.

心にひそむ神秘的な、憧憬的な、永遠的なものが……。
人間は、人間を超えたものの存在を知り、それを仰ぐところに祈りが生まれ、そこに人間性が残されてくるのだ。



“人類の進歩と調和”この言葉によって七十年は開かれた。世紀の祭典「万博」は科学技術の驚くべき発展と物質文化の未来図を誇らしく示している。だが、そこには“神話”が失われている。人間の

聖徳太子救世観音に祈る人々
—万博内「法輪閣」安置—

創価学会の意図するもの

竹 中 信 常
(大正大教授・文博)

去る五月三日、創価学会第三十三回本部総会における池田創価学会長の発言は学会自身はむろんのこと、日本の宗教界、仏教界をはじめ多くの分野からの異常な関心を集めた。そして、その意外にあっさりとした転進ぶりにいささか毒気をぬかれた形になったが、しかしはたしてそうであろうか。日本の宗教界とくに仏教界の将来を下すには、もう少し慎重にその発言の内容を分析し、その真に意図するところを適確に把握する必要があるのでないだろうか。

発表されたところによると、その内容は当面の出版妨害問題、国立戒壇と本門戒壇との区別、学会と党との分離、王仏冥合論の意義、対共産党態度、学会と党との体質転換、そして最後に今後の展望として、理念的には人間性尊重を基本とする「国家の論理」から、「人間への論理」の展開、現実的には「文化の創造」と「人間形成のための教育事業」とを志向することが強調されている。

高姿勢と低姿勢

出版妨害問題では「すべての言動が言論妨害と受けとられ、関係者に圧力を感じさせ、世間にも迷惑をかけてしまったことは、まことに申し訳なく残念でならない。……今後は二度と同じ轍をふんではならないと猛省したい」としてきわめて率直な態度にでている。そしてこのことに関する限り、一般には好感をもって

迎えられているようである。しかし、それに先立って竹入、矢野両氏がとった初期の高姿勢をダブらせてみると、出版妨害問題は「誤解」であって、その謝意はその限りでのものであるという印象を拭うことができない。つまり、始めは従来どおり押しの手を打って見たが、景勢楽観をゆるさずとみると、今度はソフトに下手にでたのだといっているはずだろうか。池田会長の従来の権威的統率力からするならば、始めにとった高姿勢が会長の了解なしになされたとは思えないからである。

池田発言の意味するもの

そして、こうした憶測は池田発言の全般を通じていえるのではあるまいか。すなわち国立戒壇にしても、国立戒壇が国民立戒壇になり、今回の発言では本門の戒壇であって国立戒壇などといった覚えはないということになる。一体不二とうたわれた学会と党とが「体制能まで一体不二とはいっていない」という論法もこれであり、対共産党も「断乎として戦う」べきが、「これは私の本心ではない。共産党の攻撃から防禦するために、反撃せざるを得なかっただけのことだ。こうした下口仕合いはできるだけ避けたい。かたくなな反共主義をかかげるものではない」と、いうことになる。——これら一連の論理の飛躍はすべて池田会長の長い沈黙の結果としての決断である。ということば、

たとえ前にもどのような言辭が弄されようとも、会長自身の決断において、それはどのようにでも変換し得るということであり、逆説的にいふならば、それは内にむかっている言論圧迫にはかならない。そしてこのような変換をし細に分析してみると——すくなくとも教義的には——かつていささかの誤りはなかったが、一般に誤解されたのであるといういい方が底流しているように思われる。

学会の基本的性格

事実、五月十六日におこなわれた会長の記者会見において、新聞紙上に発表された限りでは、党の批判はおこなわれたが学会自体、とくにその教義についての反省はいささかもなされていないのである。

したがって、われわれとしては今回の発言を表現どおり素直にうけとる前に、その底にひそむ学会独自の牢固として不拔な基本的性格を適確につかんでおく必要があるのである。学会はあくまでも会長のカリスマ的性格を中核とした存在であり、その権威の不可侵性は形式や表現の変化を越えて存続するであろうし、またこうした基本的性格を失えば学会の存在理由はなくなるであろう。事実、会長の権威性のゆえにこそ、今回のような学会にとって決定的な危機を会長の決断によって一応のり越え得たのである。

自由な変換

こうした基本的態度のもとに今回の発言を意味づけてみると、学会が対外的にもつ意義として次のような要点が考えられる。

第一には、会長の決断いかによって、教義なりその表現なりを自由に変換し得るということである。このことは既成教団がいたづらに伝統宗学のカラを負って、教理教説の近代化に難渋しているのと対照的であ

る。情況いかによっては正宗教義のアルファでありオメガである「折伏」をさえ、自由に改変させ得るのである。

第二には、その真意はとに角として、学会と党を通じて体質を変えろということ、変え得るだけの柔軟性をもっているということ、老枯化に悩む既成教団の硬直的体質と対照的であり、しかもかかる柔軟性は学会をして将来に定着させる可能性を示すものといえよう。

純宗教団体としての志向

第三に、かりに、そのいうが如く学会が党と分離して純宗教団体として更生し、将来の展望として人間性尊重を基本として文化創造と教育事業に専念するということは、宗教集団の明目的役割を暗示するものといわざるを得ない。現代社会における宗教的ヒューマニズムの重要性は筆者の年来主張してきたところでありそれが皮肉にも学会によっても志向されるといふことは看過し得ぬところである。

学会の対内的要点

今回の学会の方向転換から導き出される要点は、数えあげればまだ沢山あるが、一応以上にとどめて、次に、学会自身にとつての対内的要点についてみると、第一にいわれるべきことは、今回の会長発言が結局は外部からの圧力によってなされたということである。つまり、出版妨害問題が提起されなかつたら、おそらくは竹入、矢野両氏の辞任問題も、国会議員党員の学会役職の辞任も、さらには会長の発言もなしに依然として批判拒否の硬直体質の学会党一体的独尊体制がつづいたのではないかということである。ということは、今回の問題提起がなかつたら、学会も党も旧態に安住していたということにほかならず、これが將

来どのような結果を生むにいたるかも大きな問題となる。

第二に、いままで中世の法皇無謬説的存在であった会長が、たとえ対内的な総会の席上においてせよ、「関係者をはじめ国民の皆さんに」おわび申し上げたということ、素朴な一般会員にとつては、かつての天皇人間宣言にもましてショックであろう。こうした会長の権威性の変化に対して、一般会員がどのような反応を示すが、今後の学会の在り方をはかる一つのメドであろう。しかも創価学会は宗教団体であるゆえその象徴の絶対性の動揺は信仰面に多大の影響をおよぼすであろう。「人間池田」が一般会員の間に定着し得るかどうかが。

政教分離は可能か

第三に、世評にいわれる如く、学会と党の分離、つまり政教分離がどの程度まで可能かということ、分離後の学会の純宗教集団としての存在価値の問題である。純宗教集団として限定される場合、それは日蓮正宗そのものがかつて辿った道程を再現するしかあるまい。それがそうでなかつたのは、学会がその根底に政治志向をひそめていたからである。ところが、再度、旧態に立戻つたとするならば、学会の存在理由もまた問いなおされねばならぬことになる。こうした点を勘案し、かつ現実の組織体制の上からみるならば、一個人が政治の面では黨員、信仰上は学会員としてワリ切れるかどうか。またワリ切ること自体にはたしてどれだけの意味があるのか。疑問なしとしない。

われわれは如何にうけとるべきか

しかし、われわれは今回の事件が政治、文化のレベルで発掘され、宗教、信仰のレベルでなされたものではなかつたということを銘記すべきである。したがってそれは一宗教集団の体質や在り方の問題にとどまるも

のではなく、日本宗教界が根源的に内包する問題であり、二十一世紀に立ちむかうためには、是非とも解決しておかねばならぬ問題なのである。

われわれは学会の「批判拒否体質」を云々する前にわれわれ自身の「批判不感症体質」について深く自省すべきである。

関東・甲信越ブロック会議

新潟県 赤倉で開催

本年の関東・甲信越ブロックの各県仏教会代表者会議は、去る五月二十四、五の両日にわたり、新潟県妙高高原、赤倉ホテルで開催された。

神奈川、静岡、山梨、茨城、群馬、千葉、長野の各県代表二十二名、地元新潟県から二十七名、全仏よりは稲田理事長以下六名が出席した。

座長に新潟県仏副会長井上憲司師を推して協議に入り、本年十月七、八日に開催の第十八回全日本仏教会新潟大会の準備状況の報告と説明があり、各県の協力を一層推進することとした。

次で各県仏の活動状況の報告があり、最後に明年のブロック会議開催地を、山梨県に依頼して懇親会にうつり、山菜料理を賞味し、若葉にかかる清新の大きを満喫した。なお要望事項は

- 一、現在各県仏教会で行なっている共済事業の併合の研究調査
 - 二、僧職者の健康保険制度の研究調査
 - 三、寺院後継者の問題について
- などの諸点について全仏事務局で取り組んでほしいとされた。

千葉県仏役員会開催

四月二十五日十一時成田山新勝寺第二信徒会館において千葉県仏教会の役員会が開かれ、昭和四十四年度歳入歳出決算報告並びに昭和四十五年度予算について報告、承認された。全仏から新聞国際局長が出席した。

昭和45年6月1日

EXPO70 特集

インド館への招待

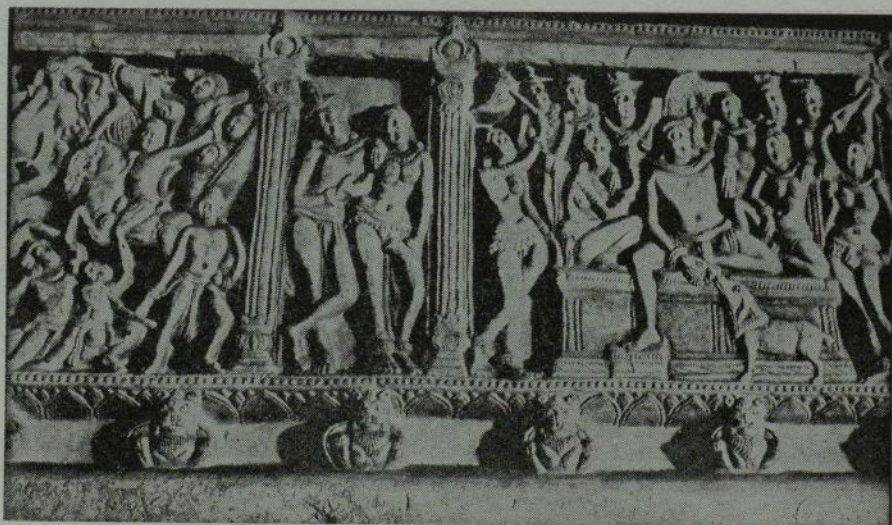
万国博が開場されてから既に二カ月余、入場者はウナギ上りに増加している。それほどまでに、どのパビリオンも好評なのだろうか。

「いや期待はずれだった。安易な写真展示が多すぎる」とか「あまりにも機械的に走りすぎる、人間までもがロボット化されそうな気がする」こんな世評のなかでアジア関係の各館は流石に人間の心を失っていないと好評だ。そのなかでも大国らしくインドは仏教を中心に神秘的な文明を私たちに学ばせてくれる。

今回はインド館に出展されているうちの二、三をインド大使館のご好意で紹介した。なおインド大使館よりの申し出により、全日仏紹介のインド館見学者には特別の配慮がある。申込みは全日仏文化局へ。



紀元二世紀の仏像で西バキスタンで発見された。ガンダーラ彫刻と同様にギリシヤ、ローマ芸術の影響をうけている
(インド博物館蔵)



紀元二〜三世紀の作品
(考古学博物館蔵)



カシヤバの菩提樹の信仰を表わした欄楯。紀元前二世紀の作品
(インド博物館蔵)



紀元二世紀の作品で仏の力を表わしたものである
(インド博物館蔵)



半人半鳥の彫刻で紀元前二世紀の初期作品である。オーランガバットの
ピタルコラの洞窟で発見された
(国立博物館蔵)



紀元十世紀の作品で南インドで発見された仏像
(マドラス・政府博物館蔵)

宗教法人の行なう公益事業その 他の事業に関する調査の概要(2)

文化庁宗務課

河和田唯賢

(教育文化関係)

幼稚園、語学塾、料理栄養塾、洋和裁塾、音楽舞踊塾、茶華書道塾、絵画塾、学習塾、珠算塾、簿記塾、婦人グループ活動、青少年センター、学生寮、図書館文庫、各種研究所、壮年・青年学級、視聴覚施設、体育施設、博物館、美術館、出版新聞業、タイフ学校、小中高、動植物園、俳句和歌塾、詩吟塾、新入社員錬成、育英奨学、夏期林間学校、公民館、キャンプ場、幼児母親教室等八〇種

(厚生社会福祉関係)

保育所、幼児施設、老人クラブ、授産施設、養護施設、身体障害者施設、各種相談所、母子寮、霊園、葬儀業務、結婚式場、簡易宿泊施設、善意銀行、公園遊園地、児童館、非行少年等保護墓塔指導等三種

(医学関係)

病院、医院診療所、助産婦業、指圧鍼灸療法、精神療法、断食療法、医療相談、柔道整骨、献血等

(製造販売関係)

宗教用品製造販売、物品製造販売、売店、神符等製造等

(商業一般)

金融、貸家貸地貸店、アパート経営、会館、貸席、貸施設、旅館、保険代理業、倉庫運送業、駐車場、旅行観光業、物貨付業、物品修理、クズ鉄買入、浴場等一七種

(農林水産関係)
農業、造林、植林、林業、新炭業、畜産業、かんきつ業、養蜂業、農業研究センター等一八種

(その他)
日曜学園、養老院慰問、敬老会、日曜学校、観音講、若婦人会、青少年参禅会、釈尊会常会、集会所、共助会等三〇種

まことに壯観である。

そのうち件数では教育文化関係が三〇%以上を占め、次いで厚生、社会福祉関係が続き、商業一般、農林水産業がほぼ同じ率を占めている。教育文化と厚生社会福祉を含めると六〇%を越す。また、農林水産業では、現行制度(農地法)の建前では、宗教法人の農地所有は認められていないにもかかわらず、農業と回答したものも多く、これは個人と混同したのではないかと思われる。また、境内山林を所有しているためか、林業とか植林業とか記入した法人もある。個人と法人

と混同したのではないかという点になると農業にとどまらず、教育文化、厚生社会福祉等の事業についてもみられるようである。宗教活動本来の領域のものを記載したり、或いは個人的色彩のものを関連事業に入れたと思われるものが相当数みられる。これは、第二次調査の段階になると一層はつきりするのであるが、この辺に法人意識や、公益事業なりその他の事業についての概念の不明確さがこのような結果となつて、おのずと現われてきているのではなからうか。とにかく、教育文化、厚生社会福祉関係の事業が主流を占め商業一般等は全体からみれば、少ないことがうかがえるのである。以上のような傾向は、過去、将来の事業に関してもいえるのである。

次に宗教系統別にみた事業の傾向は、数量的には仏教系が群を抜いており、神道系、キリスト教系、諸教の順となるがそれぞれの対象法人数との割合は、キリスト教系が高く、仏教系、神社系の順序で、教派神道は劣る。諸教系統は極めて少ない。ついでに、宗教系統別に概観するに、全般的に仏教系(その中でも浄土系、禅系)、キリスト教系に多く、しかも仏教系はバラエティに富み、伝統の強みともいふべきものがみられる。キリスト教系は、都市を中心に教育文化活動を主軸としている。神社系は、多角性の傾向をみせているが結婚式場、青少年センター、婦人グループ活動等が目立っている。商業一般は、神社系、仏教系に多い(主に貸家貸地等)。

(ハ) 主な個々の事業
これまでのところ、現在、宗教法人が行なっている事業のなかで量的に多くみられる代表的な事業は、
教育文化関係では、幼稚園(一三二) 茶華書道塾(一九六) 婦人グループ活動(一一〇) 青少年センター(一〇四)。
以下音楽舞踊塾各種の学習塾等。

厚生社会福祉関係では、保育所(二二一) 老人クラブ(一五七) 結婚式場(一一七) 各種相談。
商業一般では、貸家貸地、貸間(一七五) 貸席(三四) 駐車場(三〇) 等である。

幼稚園は都市に多く、キリスト教系、仏教系が占め、茶華書道塾、婦人グループ活動、青少年センターは、仏教系を主として、神社系が受け持ち、地域的にはどちらかといえば、市の一部を含む郡部型の傾向をみせている(ただし、茶華書道塾は都市にも平均)。

保育所は、仏教系が七五%近くを占め神社系、キリスト教系がほぼ平均し、都市よりどちらかといえば郡部、農村地区に多い傾向を示している。老人クラブは大都市より地方都市、郡部に傾き、仏教系を主とし(二二四) 神社系が残りを受け持つ傾向にある。

結婚式場は、神社系に最も多く、仏教系にもかなりみられ、都市型である。
その他、商業一般は、都市型で、仏教系が大半を占め、一部を神社系が受持っている。
(次号につづく)

智山派、脱会を撤回

全日仏理事会において

全日本仏教会では五月二十三日(事務所)に、(東京都中央区築地本願寺内)において、理事会を開催した。

- 一、昭和四十四年度事業報告の件
- 二、昭和四十四年度歳入歳出決算報告の件
- 三、各種専門委員委嘱の件
- 四、事務総局人事承認の件

以上であり、原案通り承認可決された。また、報告事項も了承された。なお加盟団体の真言宗智山派(田中宗務総長)よりの脱会届をめぐって協議がおこなわれた。この問題に対して鶴岡隆玄師(浄土)田中智山派総長より各々、経過の説明があった後、全日仏事務当局の機構整備と全一仏教運動進展をはかるため特別委員会を早急に設置することが申し合わせられ、脱会届は円満に撤回された。

事務総局人事(一部既報)

- 事務総長 伊藤 哲雄(真宗大派)
- 総務局長 熊谷 雄幸(真宗本派)
- 組織局長 桜井 大乗(曹洞宗)
- 国際局長 新聞 信雄(日蓮宗)
- 文化局長 白幡 憲佑(浄土宗)
- 総務部長 小沢 昭禧(真言智山派)
- 主事 山田 俊和(天台宗)
- 森谷智恵子
- 組織部長 伊東 堅純(真言豊山派)

各種専門委員

- 主事 福井 清俊(日蓮宗)
- 国際部長 柳 了堅(真宗大派)
- 主事 真柄 信雄(真宗本派)
- 文化部長 阿部 顯瑞(曹洞宗)
- 主事 服部 光順(浄土宗)

- 板橋 有成 井上 恵行 植松 威
- 小瓶 寛澄 星野 昶温 吉亨田原重
- 四宮 正吉 来山 泰龍 淺井 堅教
- 柳下 隆侃 芳賀 達宗 望月 亮欽
- 山本 芳連 美濃部 薫一 古屋 道雄
- 岡部 崇宣

カトリック・新司教就任式

全日仏よりメッセージ

キリスト教カトリック・グアム地区におけるフロレス新司教の就任式が五月十七日にグアム島で執行された。

この式典にあたり全日本仏教会では稲田稔界理事長が出席し祝意を表した。

当日は午後五時よりグアム島のマリヤ大聖堂でアジアおよび太平洋地域の全司教をはじめ約三千人の関係者が参列して盛儀であった。

特にフロレス新司教は現地人神父としては最初の司教就任でありアジア太平洋地域のカトリック関係者の喜びは大きかったようである。

(組織専門委員)

- 岩本 昭典 熊野 竜夫 北之内 昌雄
- 永見 聖宏 近藤 英雄 椎谷 健
- 神野 真一 鈴木 敏範 新美 孝道
- 船口 照子 批批田義正 北川 一有
- 大平 文友 田中 香浦 清水谷孝尚
- 新川 日見 西村 輝成 郡司 博道

(国際専門委員)

- 奈良 康明 麻布 照海 寺田 康順
- 石井 真孝 鎌田 良昭 壬生 照順
- 藤井 真水 壬生 台舜 門屋 大寿
- 村野 宣忠 岡野貴美子 桜井 榮章
- 阿部 電文 余語 翠巖 山口 智光

(文化専門委員)

- 伊藤 道機 勝又 俊教 金岡 秀友
- 真溪 義賢 摩尼 清之 中村 康隆
- 鎌田 茂雄 白川 良純 橋 純雄
- 井上 政徳 石上 慈敬 三輪美津子
- 島田喜久子 細川 量雄

また従来ではカトリックの正式行事に異教徒の出席はありえなかったが、今回はカトリック側より日本仏教界に対して熱心な招請があり、全日本仏教会では稲田理事長を正式代表として派遣し、メッセージを托したのである。なお同理事長と共に巖谷勝雄師(国際仏教興隆協理)が同行した。

祝辞

わたくしはこの意義あるカトリック・グアム地区新司教就任式にあたり全日本仏教徒六千万人を代表し御祝辞を申上げる機会を得ましたことを光栄に

存じます。私たち宗教者は人種国境を

超えて如何なる宗教を問わず人類の福祉と世界の平和実現のため力を合わせて努力することが最大の責務であると信じます。そうした意味においてこの度この太平洋の中心であるグアム島において仏教とキリスト教の両者が一堂に会したことは史上はじめてのことであり、今後の宗教界に大きな意義をもたらすものと誠に喜びに堪えません。最後に新司教の御活躍と貴教会の発展を心から祈念し祝辞といたします。

一九七〇年五月十七日

財団法人全日本仏教会

理事長 稲田 稔界

仏教徒の総結集

岐阜県檀信徒大会

岐阜県仏教会(大石会長)では、昭和四十三年の全日本仏教徒会議岐阜大会を契機に県下の檀信徒の組織化のため毎年檀信徒大会を開催してきているが、本年も五月九日、岐阜市民センターで約三千人の檀信徒が参加して開催された。

同仏教会では、昨年以來この檀信徒組織の充実と仏教信仰の培養のために「お経をならおう」の運動を展開しているが特に青少年の参加者が多く、ある小学校などは三百五十余名の学童が、お経をならうなど、非行化防止に大きな力となり社会の注目をあびている。

当日は熱心な檀信徒百八十名が表彰を受けた。全日仏よりは桜井組織局長、井同局主事が出席した。

青森県仏教会結成

五月九日、青森市で発会式

東北地方において多年の懸案とされてきた青森県仏教会の組織化がこのほど完成され、去る五月九日、その創立結成式が挙行された。

当日は午後一時より青森市本町運乗寺を会場に開催され、全日仏より稲田理事長、新聞国際局長、伊東組織部長が出席した。

結成式は花まつり法要につづいて行なわれ、東義寿師のあいさつ、楠美知行師の経過報告があり、篤志賛助者に感謝状が贈呈され、稲田理事長はじめ来賓多数の祝詞があつて盛況裡に閉会された。

なお記念講演として東京大教授笠原一男博士「現代の仏教徒に望む」があり聴衆に深い感銘を与え今後の同仏教会の発展が期待された。



県下各地より参集した結成大会

仏教界の動き

(ニュース・投稿を歓迎します)

当日、選出された役員は

会長 東 義寿

副会長 楠美知行、田口豊海、樽山大典、間宮秀学、小林隆道

事務所は青森市堤町一、蓮得寺に置かれた。

日本仏教(英文)図書

ネパールへ

ネパールの首都カトマンズ市にあるスワヤンプ仏教寺院では五月十七日のウェサカを期して仏教図書館を開館した。

この図書館の開設を機会に世界の仏教各国に対し仏教図書、資料の寄贈を申し入れていたが、全日本仏教会に対しても外務省を通して英文による仏教図書の寄贈を依頼してきた。

全日仏では、とりあえず英文日本文教ガイドブックを百部贈呈した。なお各宗派の有名寺院の写真集や英文図書の寄贈を関係方面に依頼している

三重県「和の祭典」を開催

三重県仏教会主催による、仏教徒大会「和の祭典」は、五月十七日午前十時から鈴鹿サーキット本田体育館で開催された。

当日は全日仏常務理事村瀬良彦師をはじめ県下の仏教徒が参加し意義ある大会であった。なお聖徳宗管長間中定泉師と内閣官房副長官木村俊夫代議士の記念講演がおこなわれた。

哀悼

来馬 道断師(前全日本仏教会理事)



長、東京仏教連合会会長 高岩寺(とげぬき地蔵) 住職)

肝硬変のため、一月から東大付属病院大塚分院に入院加療中であつたが、五月十三日遷化された。享年六十六歳。

来馬師は福井県出身。曹洞宗議會議員 同議長、同宗務総長、全日本仏教会理事 長、文部省宗教法人審議会委員、東京仏教連合会会長、世界連邦日本仏教徒協議会 理事長等を歴任し、曹洞宗および仏教界のために活躍した。特に万博参加の法輪閣建設にあたっては全日仏理事長として多大の貢献があつた。

荼毘式は五月二十九日、大本山永平寺別院(東京都港区)において本山葬をもつて執行され、仏教界の代表者、信徒ら一千人が参列した。

渡辺 真海師(元全日本仏教会理事)

長、元浄土宗宗務総長、西方寺住職)かねてより病氣加療中であつたが六月三日遷化された。享年八十四歳。

同師は浄土宗宗務総長、全日本仏教会理事長、浄土宗管長代務者、大本山増上寺執事長を歴任した。なお表葬儀は六月二十一日午後二時から東京都新宿区堀ノ内西万寺において執行される。

大太平洋諸島戦没者慰霊祭開催

(梅友会第一回全国大会)

行 各種 昭和46年2月 第2週予定 10日間
訪 各地 沖縄・グアム・サイパン・ハワイ

旅行のお世話は近畿日本ツーリストが行ないます くわしくはパンフレットにて

連絡先 ☎ 460 名古屋市中区大須三丁目39番33号

TEL ナゴヤ<052>241-0901・1920

法衣・装束・神仏具 贈答 用記念品 梅金商底内 梅友会事務局 幹事 山田二三雄

昭和四十五年六月一日発行
六月号 第一五七号

発行人 伊藤 哲雄 編集人 白幡 憲佑

発行所 財団法人 全日本仏教会
東京都中央区築地三丁目一五ノ一(築地本願寺内)